

会議録

会議の名称	清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（第2回）
開催日時	令和6年2月15日（木） 午前10時から正午まで
開催場所	清須市役所南館3階 第3会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 清須市人口ビジョンの改訂案について (2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025の骨子案について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 [会議資料] 資料1 清須市人口ビジョン（令和6年改訂版）（案） 資料2 清須市人口ビジョン（平成28年2月策定）における課題への対応状況 資料3 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025（骨子案） 参考資料 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議開催要領・公開等 参考資料 清須市人口ビジョン改訂案 7ページ補足資料 参考資料 清須市人口ビジョン改訂案 人口の将来展望 5歳階級別人口の推計
公開・非公開の別（非公開の場合の理由）	公開
傍聴人の数（公開した場合）	0人
出席委員	水谷委員、石嶋委員、名倉委員、辻委員（代理）、小川委員、小副川委員、高橋委員、高山委員
欠席委員	なし
出席者（市）	河口企画部長
事務局	[企画部企画政策課] 林課長、神野課長補佐兼企画政策係長、秋山副主幹、岩田主査 [株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 東海支社] 江口支社長補佐
会議録署名委員	小川委員、小副川委員

1 開会

(林企画政策課長)

ただいまから、令和5年度の第2回清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。

会議の開催にあたりまして、はじめに、企画部長の河口よりごあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

(河口企画部長)

皆さまおはようございます。企画部長の河口です。

本日は大変お忙しい中、まち・ひと・しごと創生総合戦略の会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、皆さま方におかれましては、日頃から市政各般にわたりご理解、ご協力いただいていることに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

本市は現在、令和7年度を計画期間の始期とする、第3次総合計画の策定を進めています。この総合計画と一体的に次期地方版総合戦略の策定、人口ビジョンの改訂も併せて行っているところです。

総合戦略は、主に人口減少問題に主眼を置いたものとなります。本市の出生率を見ると、県下でも1、2位を行ったり来たりとかなり高い水準を保っていますけれども、令和3年9月をピークに人口減少が始まっているのが現状です。こうした状況を踏まえ、このまま何もしなければ、人口減少は更に加速していくことは明らかです。人口減少が進めば、地域経済の停滞や各分野における担い手不足の深刻化など、様々な問題が生じてきます。

こうした状況下で、住民が行政に何を求めているのかということ、そしてその期待に応えながら将来にわたる清須市の発展のためにどのようなビジョンを持つまちづくりを考えていく必要があるのかという点について、事務局なりの考えを示していきたいと思っています。

各分野で活躍されている委員の皆さま方におかれましては、そのような視点で、それぞれの立場から忌憚のないご意見を頂きたく、本市が持つ特性を生かした目指すべき地方創生、まちづくりの方向性を一緒に考えていくべきと考えておりますので、よろしくお願ひします。

(林企画政策課長)

本日は、愛知県の文化財室室長の辻委員から出席できない旨をご連絡いただいておりまして、同室室長補佐の稻垣様に代理でご出席を頂いています。

また、本日の会議は委員8名のうち全員が出席し、過半数を超えており会議の成立しておりますことをご報告申し上げます。

それでは、ここからは議事の進行を水谷座長にお願いします。

(水谷座長)

皆さま、本日もよろしくお願ひいたします。

初めに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順となりますが、今回、辻委員が代理出席ということで、その次の小川委員と小副川委員にお願いしたいと思います。

3 議事(1) 清須市人口ビジョンの改訂案について

(水谷座長)

それでは、議事(1)「清須市人口ビジョンの改定案について」の説明を事務局からお願ひします。

(岩田主査)

【資料1（38ページまで）を説明】

(水谷座長)

それでは、委員の皆さまからご質問やご意見を頂きたいと思います。

この会議は気軽にたくさん意見をいただけたらと思いますので、ご遠慮なくお願ひします。

では、最初に私からですが、6ページの「③年齢別人口推移」の2020年と2050年のグラフで、0～14歳の推計の仕方ですが、出生率が変わらず、20代、30代の方がその出生率での出産を想定してこの数字が出ていると考えていいですか。

(岩田主査)

ここについては、出典にも記載されており、令和5年に公表された社人研の推計結果を掲載しています。ですので、市の取り組みによって出生率が上昇したり、若い世代の移動率が改善したりする部分は考慮されていない推計結果になります

(水谷座長)

2020年は国勢調査のデータを利用し、2050年は社人研のデータで、しかも令和5年推計ですね。気になったところは、10～14歳は2020年が約1,400人で、2050年は1,300人ほどで、それほど変わらないとの印象がありました。人口減少の話がある中、生まれてくる人たちがそれほど変わらないことが不思議に思いましたが、2020年は実績値で、これとあまり変わらないとの想定ですか。

(岩田主査)

社人研の結果を見ますと、そのような結果となっています。

(水谷座長)

ちなみに前の推計は変わっていましたか。これは令和5年の最新の推計結果ですが、この前です。最近、前提として社人研が推計の仕方を変えたのかということです。

(株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 江口)

社人研の推計については市区町村別に出ていますが、採用する出生率や移動率については、10年程度の比較的長いスパンのものを採用していると思います。5年前の平成30年の推計については、その時に得られた直近の出生率や移動率を使っています。

当然、係数をとる時点の違いによって、使っている値自体はその時々で違ってくることがあります、基本的な推計方法は変わらないと思われます。

(水谷座長)

分かりました。ありがとうございます。人口の減少が、もしかしたらもっと少ないのではないかと思いました。その場合は想定・前提が変わりますので、その辺が気になりました。

皆さん、気になるところなどいかがでしょうか。労働人口もかなり変わってきたり、高齢者を支える生産年齢人口が4人に1人から3人に1人となりましたが、実際に生産年齢の方々が子どもを持っているとすると、小さい子どもたちもケアする対象ですので、1人に2人ぐらいがケアの対象とすると、働く人に相当負担がかかってくることが見えてくるデータではないかと思います。石嶋さん、その辺はいかがですか。

(石嶋委員)

ここまでのことろに関しては事実ですから、これを受けてどうするというこの後の話に関してはまた意見したいと思います。

(水谷座長)

こういう推計をしてほしい、このような観点からデータが欲しいということがあれば、どのような視点からでも結構です。他の方はいかがでしょうか。

(名倉委員)

23ページにあるように、市内の事業所数や従業員数が気になる点です。このデータを見ると、市の産業は卸売業や小売業、製造業等で成り立っているように見えていますし、従業員数も同様に見えます。

しかし、その半面、平成24年から28年、令和3年の調査を見ると、建設業は令和3年に多少増加傾向がありますが、製造業や卸・小売業、宿泊、飲食業などすべて減少傾向にあります。

これは今、お話をあったように高齢化が当然あって、市内には工業系の事業所が多くありますが、小さな製造業の事業所は廃業しており、軒並み減少傾向にあります。人口減少に伴って、市の屋台骨の基盤が揺らいでいくことが読み取れる結果とも言えます。商工会会員も小規模事業者が減っていく中で、市が5年後、10年後に成長し続けていくためには、減少傾向にある部分を今後どうするのか、真剣に考えていかなければいけないと懸念しています。

(水谷座長)

ありがとうございます。他にご質問などはいかがでしょうか。若い世代というのもひとつのキーになるかと思いますが、小川委員、いかがでしょうか。

(小川委員)

市内でも開発が進められ、新しい家も建っているイメージがあり、人口が増えている感じはありました。その半面、30代あたりの若い人たちが出ていていると感じています。市内には5、6つの鉄道駅があると思いますが、それ

でも不便だったり、店舗が少なかつたりといった地域もあります。先ほどの話とも通じますが、もう少し地域としての魅力があればと感じています。名古屋市に近いなど、いいところも多くあると思いますので、今から何ができるかを話し合っていければと思います。

(水谷座長)

どうもありがとうございます。

その他にも気が付いたことがあれば、後ほどでも構いませんので、気軽にご質問、ご意見を頂ければと思います。

では、引き続き、後半部分の説明を事務局からお願ひします。

(岩田主査)

【資料1（39ページ以降）、及び資料2を説明】

(水谷座長)

ありがとうございました。

また、参考資料となっている「清須市人口ビジョン改訂案 7ページ補足資料」を見ますと、ただ単に高齢者が増えるという話だけではなく、老人人口と年少人口を合計した数字と生産年齢人口の比較がどうなるか、結構シビアな結果になっていると思いますのでご覧ください。令和2年と7年の間のところですが、今の状況から、生産年齢人口は2050年には減少し、老齢人口と年少人口を合計したもののは増えていて、その差は現在と比べものにならないほど小さくなっています。この年少人口、老齢人口の方々をケアしていることが多い40代、50代の女性は、親が認知症で子どもを2人見なければいけないことに加え、自身は働いて家事もしなければならないと泣いていらっしゃいます。そういう人たちが既に私の周りだけでも何人もいる状況です。このような状況が進むと、今後は働くこともかなり厳しくなるのではないかと思います。そういうことをデータからも読み取れるように、参考資料として事務局に作成していただきました。

また、別の参考資料「清須市人口ビジョン改訂案 人口の将来展望 5歳階級別人口の推計」を見ていただくと、どのケースでも85歳、90歳以上の方が明らかに増えます。その方々は社会的にも、家族という意味でも、何らかのケアが必要になっていきますので、その方々をケアする人の時間がそこに割かれることになります。社会的にケアしたとしても、完璧ではないと思いますので、そういうことも想定した上でどういう働き方ができるのかを考えていかなければいけないと思います。補足でした。

委員の皆さまからご意見、ご質問はいかがでしょうか。

(石嶋委員)

清須市は、42ページにある人口の将来展望のケース③を目指していくとの認識でいいですか。全体的に事実が並べられていますが、どうしたいのかが分かりにくいと思います。ケース③の状態を目指したいのであれば、そのための課題の洗い出しや取り組みの考えを問うのであれば分かります。事実が並べられ、文章でも「必要がある」との表現だけで、何をどうしたいのかがわからずコメントしづ

らいと感じます。

(水谷座長)

おっしゃるとおりだと思います。今のご指摘は大変大事なところで、これまでの計画は過去・現状、こういうことで困っていることを明らかにし、それを解決するための方法を示すのが計画の仕方だったと思います。

今回の総合戦略は未来を見て、特に人口の問題は切実で逼迫した課題になってきますので、未来を描いて、その未来をどのように実現するのかという未来志向の計画が必要になってきます。私も計画の仕方自体が変わらないといけないと思っているところです。大きな方向性として未来を描き、それを実現するところは、本日変えることができますか。どうすればいいのかという点についてアドバイス、ご意見はありませんか。

(石嶋委員)

人口の将来展望では、ケース③にしたいことが大前提なのかなと思います。そのため、ケース③にしていくために何をするかを考え、優先順位として30代、40代のところに取り組んでいければいいと思います。加えて、増えていく高齢者に活躍してもらう仕組みも将来展望とは別に重要な取り組みだと思います。ありたい姿を描き、取り組みの優先順位を並べ、どうするかになると思います。これでは課題も優先順位も分からず、何をどうすればどこに効果が出てくるのかが見えません。まずケース③を目指すことを表明し、そこに至る課題を設定することだと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。

(林企画政策課長)

冒頭で説明した人口ビジョンは、あくまでも事実と課題整理を行いました。この後、ケース③を目指し、人口減少に歯止めをかけるという市の目標がありますので、この後、骨子案をお示しする総合戦略で、それに向けた取り組みや基本の目標などを定めていきたいと思います。ですので、そのような取り組みに関しての基本目標などを定めていくに当たり、ご意見を頂戴したいと思っています。

(水谷座長)

ケース③を理想的なものとして描いて大丈夫なのでしょうか。その議論は必要だと思いますが、いかがでしょうか。人口減少だけではなく、人口構成などがあります。例えば、100歳以上が増えても、マネジメントの問題が出てきます。また若い人たちのどの部分を戦略的に増やしていくのかなどの点も含まれているのですか。

(林企画政策課長)

人口ビジョンでもありましたが、若い世代と子育て世代での人口流出がありますから、そういう方々の定住などを目指していくことです。また高齢者の方については、地域の担い手として活躍していただけるような取り組みをしていくこと

こともあります。

(水谷座長)

6ページにある「③年齢階級別人口の推移」は、推計するところなるというデータだと思いますが、推計ではなく2060年にはこのようにしたいというものはありますか。人口という意味では、おそらく目指すところのビジョンではないかと思います。石嶋委員、考え方としては違いますか。

(石嶋委員)

私もそう思います。

(水谷座長)

その構成を目指すために打つ手を考えることが未来志向の考え方ではないかと思います。

(岩田主査)

人口構成についての目指すビジョンというものは示しておりません。

(水谷座長)

行政計画の根底が変わってきているというところがあるので難しいかもしれません、データから人口の減り具合は危機的な状況ですから、今回見直したほうがいいとは率直に思います。

皆さんにも意見をお聞きしたいと思います。

(高山委員)

基本的には出生率を上げることと、お子さんのいる子育て世代の流出が多く、そこに歯止めをかけることの2点が今日の資料の中の主なところではないかと思います。資料2の左側のページにある下から2つ目の「〇」に、「企業誘致などの手法により、魅力的な商業・娯楽施設や飲食店等の充実に向けた検討」が具体的に記したところだと思います。結婚に対する観念などについては、清須市だけが変えていくのは難しいと思います。そのため「企業誘致などの手法」を具体的にどのように行うのか、あるいは「企業誘致など」の「など」とはどのようなことが考えられるのか、この辺についてビジョンがあれば教えていただきたいと思います。

これに関連して、ジブリパークなどがある長久手市の人口はいかがでしょうか。出生率も1、2位を争う状況で、しかも休日の滞在率も100を超えていました。長久手市は以前から子育て支援でブランディングがしっかりできていましたが、その比較を行えば具体的な施策が見えてくるのではないかでしょうか。イケアが進出するなどいろいろなことがあり、参考になるところを拾って考えていくべきだと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。次回に向けて具体的なところは質問を頂ければありがたいと思います。

(河口企画部長)

これまで説明してきたことは確かに事実です。こちらが過去の人口ビジョンによる取り組みと、それに対する検証です。41ページを見ていただくと、市としては目指すべき方向性の4つを示させていただきました。資料3を見ていただきまして、3ページの(2)に「3つの基本目標」として先ほどの方向性①～④があります。この4つの方向性をもって3つの基本目標を掲げいきます。この3つの基本目標を基に、次の会議では展開したい施策など個々の項目を挙げていくことを考えています。この方向性や基本目標で個別の項目を今後検討させていただきたいと思っていますが、いかがでしょうか。この基本目標や方針がおかしいといった点や、こうした基本目標を掲げるのに追加できる意見や提案を頂ければと思っています。

(水谷座長)

ありがとうございます。少し会議時間を延長しても大丈夫でしょうか。

(河口企画部長)

これは非常に重要な問題ですので、思いがあればお話していただき、また後日メールで個別にご意見を頂くことも結構です。次の会議では、4ページ以降の歯抜けの部分を示したいと思いますので、示す前にご意見があれば事前に頂ければと思います。

(水谷座長)

分かりました。骨子案が大事という認識でいますので、方向性について簡潔に説明していただき、全体的に可能なところは意見を言っていただき形で進めたいと思います。

3 議事(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 の骨子案について

(岩田主査)

【資料3に基づいて説明】

(水谷座長)

それでは、ここからは活発に意見を言っていただき、必要であれば、後日事務局にお伝えいただくという形で進めていきたいと思います。どなたからでも結構です。

(石嶋委員)

ここは、行政と民間企業で違いがあるのかもしれません、目標は、基本的に数値化が先と思っています。人口の観点からは、出生率の向上と転出の低下、転入の向上と大きく3の目標を立て、そのために何をするかが方向性の4つや基本目標なのかと思っています。順番が違うのではないかと思っています。目標を掲げるから、それが達成されたのかどうかがあると思います。そうでないと、取り組みが効果的なのかどうか、感覚的には分かりにくいと思います。

これまでのやり方などもありますので、一概にどちらが良いと簡単に言えるこ

とではないと思いますが、意見として発言させていただきます。

(水谷座長)

確かに出生率や転入・転出数があり、また人口構成みたいなところはどうなのでしょうか。高齢者の増大が市として耐え切れるのか、幸せへのアプローチも違ってきます。その辺はどうでしょうか。

(石嶋委員)

年齢構成のところも、市として掲げるべきだとなればそうでしょうねけれども、大原則は出生率と転出・転入の3つが狙いどおりに運べば、人口の目標達成の可否が推測としては立つのではないかと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。一方でどのようなレベルに持っていくのが適切なのかということがあります。市として人口減をどの程度に抑えればいいのかもあります。先ほどの人口ビジョン案のケース③の減り具合を目指すのか、またそれでいいのか。このパターンだということは、こちらの骨子には書かれていませんが、掲げる目標・ビジョンになるのでしょうか。42ページの「7 人口の将来展望」のケース③が市として目指すところと考えるのであれば、骨子にそれをうたって、その実現に向けたアプローチがあるかという書き方でないといけないと思いますが、いかがでしょうか。

(河口企画部長)

そもそも2つあると考えていただいて、1つは人口ビジョンといって、2060年までにどのようになるのか、事実ベースで情報の整理をしたうえで、合計特殊出生率などを上げると人口推計の曲線がどうなっていくのかを分析したものが人口ビジョンです。それを受け、人口減少に歯止めをかけるためにどうするのかという具体的なものが総合戦略で、つがいになるものだと思っていただけると良いかと思います。

(水谷座長)

そのとおりに理解しています。こちらの人口ビジョンは過去から将来を予測する予測型の計画のアプローチです。こちらの戦略は、目指す未来を描き、そのための方法を考えるバックキャスティングの手法だと思います。大事なことはどこを目指すのかです。人口の推計はありますが、目指すところをうたい、そこからバックキャスティングしていく必要があると思います。そのため未来像は描くべきだと思いますが、その点はいかがですか。総合計画との整合も必要かと思います。

(河口企画部長)

目指すべきところはケース③です。ご指摘のとおり、最終的な人口構成の形を目指すところについて、どの年代を増やしたり、減らしたりすることで、こういう形にしたいということはありません。出生率向上のために、子どもを産んでもらうために若い夫婦が増えて、そういう人たちが子どもを産み、育てていけるようになるということが、いま市として取り組んでいけることであり、これが良い

い結果につながっていくのではというイメージを持っています。

(水谷座長)

分かりました。そうすると、骨子案の最初に目指すところを大きくうたう必要があります。そのために1つの指標として目標があるとの考え方でよろしいでしょうか。骨子案には目指す像を入れていただくことがいいと思います。

(石嶋委員)

ケース③の中で、出生や移動率が出ているということは転出・転入の数字も出されていると思います。それがそのまま目標になり、その目標を達成するために今後5年間ですべき水準が出てきて、そのためにどのような取り組みが必要になると思います。私たちの職場ではそういう考え方で進めます。順番のつくり方が違うように思っています。

(河口企画部長)

計画のつくり方で言えば、行政が考える計画は頭から作っていきます。民間だと最終的な目標は、売り上げを上げるために何をするのかという計画だと理解しています。私たちの計画作りは、いろいろな課題があって、その解決のための方向性を定め、取り組みや具体的な事業をどうしていくかという話になりがちです。そもそもの計画を作るということの発想が違うところもあると思います。現在、根本的な総合計画も作っておりますので、頂いたご意見も踏まえて考えていきたいと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。まさに研究者レベルのところからそこが変わってきているところがあるので移行期ではないかと思っています。まち・ひと・しごと創生総合戦略ですから、この話については戦略的に未来志向でどうしたらいいかを考えることが良いかと思いますが、その整合が難しいのかもしれないと思います。それでは、他にいかがでしょうか。

(小副川委員)

現状の把握を説明していただき、よく理解できました。その中で、気になった点が2つほどあります。まず、戦略を立てていくに当たり、5ページを見るとエリアによって人口の推移が違っています。新川地区は減少傾向にありますが、計画していくに当たりエリアごとの戦略の有無を教えてください。また、あるのであれば、どのような形なのかについてもお願ひします。

また人口を増やしていくに当たり、定住者の増加が課題であることは認識できたのですが、一般の定住者向けに、転入が増えることにつながるような、分かりやすく訴えるものがあるのかどうか、またそれと比較して今後新たに増やしていくものがあるのかどうかを教えていただきたいと思います。

それに関係して、アンケートの結果でも分かることとして、「魅力的な店舗や飲食店が少ない」ということで、戦略の中に入れていただいているようですが、商売などで新規の出店などに対する市の施策があるのかどうか、また今後拡充する予定があればその内容についても教えていただけるとありがたいと思います。そ

ういったものも含め、施策の認知度を上げていくことが大事だと思います。SNSなども活用しながら、全般的に市の認知度を上げながら、流入者を増やしていくことが重要ではないかと感じました。

(水谷座長)

ありがとうございます。今日、全部お答えするのは難しいかもしれませんので、次回で結構です。エリアごとの戦略や定住者向けの施策については、この場でお話ししていただけることがあれば簡潔にお願いします。

(岩田主査)

市としても、土地の利用方針などを定めているため、具体的にこの場ですぐはお示しできませんが、ある程度、地域に応じた土地活用の方向性というものはございます。ですが、例えば、この総合戦略の中で、特定の地域でこうした取り組みを進めるというところまでの記載は現状難しいと考えています。総合戦略としては、市全体で考えたときの取組や目標について策定していくことになると思います。

(水谷座長)

エリアごとについては掲げたほうがいいというお考えですか。

(小副川委員)

そうではなくて有無についてお伺いできたらいいということと、エリアの中では戦略があるところもあるということでしたが、「大型商業施設が誘致されるのではないか」という話も聞きます。中小企業の誘致も大事ですし、大型施設なども市の魅力としてあればいいと思います。そういう話も出ているのでしょうか。

(岩田主査)

これについても、この場で具体的なお話をすることは難しいですが、例えば、現在も市内的一部地域では、区画整理事業の立ち上げに向けた取組が進められています。今後は、その区画整理の区域内において、どういった土地利用がされたら良いですか、そこに商業施設ができたら良いのではといった検討はされていくことになると思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。都市計画などいろいろな部署との関係が総合戦略にはあると思います。公開されている情報は、少し施策に盛り込んだり、目標として掲げるところに入れたりできれば良いのではないかと思います。

(高橋委員)

労働組合という立場も含めてお話をさせていただきます。皆さんがあれられたような感覚を持っていますが、人が子どもを産み育てて、親を介護するという流れがあると思います。労働組合は助け合いがベースにあることを考えると、子育てに手がかかり、働きやすくするためにどうすればいいかということで待機児童の問題などに取り組み、そういうことが認知され「清須市に住んでみよう」という気

持ちになることがあると思います。

介護の問題については介護離職について気にしています。高齢者を見ていく上で非常に苦労している人が多くいますので、この辺についてもケアしていただくことで清須市に住んで働いて、「近くだから介護しやすい」という流れに持っていくことも必要だと思います。

また労働組合で新年のイベントで清須市の商品を出します。「鬼ころしサブレ」が好評で、われわれの中から清須市に興味を持つてもらうことも行っていき、公助ができる部分は、実は、実際は小さくて、民間が力を合わせて発信することで少しづつ変えていくことが必要ではないかと感じます。

(水谷座長)

ありがとうございます。非常に重要な部分だと思います。今回目指すべき方向性は4つともいいと思いますが、加えて働く人にやさしいまちについていかがでしょうか。清須市は働く人が住んでいるというところが魅力でもあり、定住していくためには重要なところだと思います。方向性には、子どもを産んでくれる若い世代とシニアの方、地域という視点が主に入っていて、4つ目も「地域の担い手」という書き方がされて、「働く人たち」が入っていません。人口の動向を見ると、このままだと働く人たちが働きにくい社会になってしまうので、働きながら介護や子育てもできるまちについても方向を掲げてはどうかと思うが、委員の皆さまはいかがでしょうか。

(名倉委員)

おっしゃるとおり大事な点ではないと思います。清須市として目指す目標としては、話があったように産業の減少などが続く中で、企業も住民も働く人も良しとなるまちになるのはいいと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。子どもと一緒に転出してしまう方が多いとのデータもありました。そこに対する何らかのアプローチが必要だと思います。そういう意味でも、働く人を大事にする方向性を1つ提案させていただきたいと思います。

(岩田主査)

愛知県にも県の総合戦略があり、その中では、県全体でワーク・ライフ・バランスを推進するため、推進協議会が立ち上げられていたり、取り組みの一例として、学校や仕事を休んで家族と出かけて学ぶ機会をもっとつくるという、ラーニングとバケーションを合わせた「ラーニング」などの取組が進められています。まず、県全体でそういった取組が進められていることを前提に、それとは別に市として企業などにどこまで関わっていくべきなのは難しい問題です。具体的な取組を求められると難しいということで、目標にも掲げづらい現状はあります。社会全体の課題は様々あって、解決するべきものが多くありますが、その解決の一端を市町村として担える部分はどこかと考えたときにどうなのかということが出てくると思います。

(水谷座長)

大事なところで、計画の作り方の違いだと思います。今ある問題に対してどうするのかという、過去から未来に対する方法だと発想で困ってしまうところがあります。定住してほしい人たちが転出したり、子育てや介護しながら働く人たちをどうにかしたいというビジョンを掲げて、それに対して何をするかというバックキャスティングの考え方だと、働く人にやさしい地域という目標が1つ立つことになります。

しかし、おっしゃるようにどうしたらいいか分からぬといふところだと思います。それはまず掲げることだと思います。掲げて「どうしたらいいのか」の部分はみんなで考え、行政が背負い過ぎなくともいいように思います。このままいくと、そこはなかつたことになって、目標も掲げられないために、その方々がつらいまま、認識もされない状態になってしまいます。その結果、民間の側でも働く人がいないことになってしまいます。ですから、ここはかなり大事な部分だと思います。行政の皆さんにご迷惑をおかけしていることは重々承知ですが、委員の皆さんに投げかけたいと思います。この点についていかがでしょうか。「行政が行いやすいようにしたほうがいい、働き手は民間で」というスタイルで大丈夫でしょうか。

(石嶋委員)

大丈夫かどうか分かりませんが、目標やありたい姿は、できないと駄目というか、「こうなったらしい」「これから考える」という部分があってもいいと思います。できるものしか目標に立てないのであれば、それは結局できるわけでチャレンジが生まれないことになります。「清須市はこうなりたい」「そのために役所はこのようなことを行う」「この点は民間の力を借りて行ってみよう」「できなかつたとしても、ありたい姿を描き次に考える」ということでもいいのではないかと思います。

(水谷座長)

できなくてもチャレンジしてみると、できる目標だけではないということですね。これは行政にとっては大きなチャレンジだと思いますが、委員としてはどのようにお考えでしょうか。

(高橋委員)

労働組合の立場でいうと、私は役員で組合員がいます。組合員が思っていることを会社が実現できなかったとしても、「言ってくれた」「行ってくれた」というだけでも満足度がかなり変わってきます。作り上げるという視点は大切だと感じます。

(水谷座長)

ありがとうございます。立場が違うかもしれません、いかがでしょうか。

(辻委員（代理）)

まず資料から何を目指すのかが分かりにくく、委員の皆さまがおっしゃることは分かります。指摘されたように、「まず目標があって」ということもよく理解で

きます。ただ、チャレンジとおっしゃいましたが、私たち行政の立場からチャレンジが許されるのかということがあります。行政が掲げるものについては、「できるか、できないか分からぬが掲げた」では許されないと私は思います。責任を持って掲げないといけないのではないかと思っていらっしゃるのではないかでしょう。私たち県の立場でもそうなります。掲げるに当たっては、予算の担保の調整が取れないまま掲げるには、行政組織にとって非常に難しいのではないかという点もあります。委員の皆さんに甘えててしまうと、「委員からこう言わされた」ということがひとつ検討する材料にもなるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

(水谷座長)

行政からたたき台や案が出され、会議で議論した結果、できるかできないかは分からぬかも知れませんが、できなくても一緒に考えようという書き方はあり得るのでしょうか。

(辻委員(代理))

若い方の子育てに対する経済的な不安に対して必要な対策が委員から出されたものであれば、「委員からこういう意見が出された」とは書けるとは思いますが、行政側からはなかなか難しいのではないかでしょうか。

(水谷座長)

貴重な視点、実情をお話ししていただきありがとうございます。行政側の立場も含めて、委員の皆さんから建設的で前向きなお知恵を頂ければありがたいと思います。

(名倉委員)

半官半民の私の立場から今までの議論はよく分かります。例えば、清洲城をいかに生かしていくかについては長年の課題で、周辺地域に商店街をつくったり、集客施設にするなどの案は昔から出ていて、しかし一方では、現在住んでいる人たちに移動してもらわなければ実現できないなどの問題が現実的に出てきます。産業の活性化を題目に並べるのはよく分かりますが、具体的に落とし込んでいくとなると、書面に残して市民が見たときに「何もできていないのではないか」という意見も出たりしたとき、そのハードルは市の気持ちになるとよく分かります。

しかし、そういうところまでしていないと、本当の意味での活性化はできないのではないかとも思います。ただ現実的に住んでいる人たちの移動の問題などになるとなかなか難しいと思います。しかし段階的にでも挑戦することは必要ではないかと思います。

(水谷座長)

段階的な挑戦はあり得るかもしれません。ありがとうございます。

いきなりの変化は難しいかもしれません、これまで「できないことは書かない」ということで何十年も来て、危機迫った状況になりつつあります。ここでアプローチ自体を見直し、許されるなら少しでもチャレンジをともにしていくこと

ができればいいと思います。

それでは、時間も来ましたので、今回の件に対してご質問やご意見がある場合は、事務局にご連絡を頂けるとありがたく思います。ご協力ありがとうございました。最後にご意見等ありませんか。

(辻委員(代理))

私も決してチャレンジしないという意味ではありません。むしろチャレンジは必要だと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。

(高山委員)

資料1の11ページにある年齢別の増減を見て、賃貸に住んでいて持ち家になるときに清須市を選ばずに他へ行ったり、男性では20代で減っているところがありますが、大学や社会人になったときに出ていくのか、細かい分析があればいいと思います。もう少し資料があればいろいろと見えてくるのではないかと思います。

(水谷座長)

ありがとうございます。もう少しヒアリングなど何かができるといいかもしれません。

他には、外国人の話が入っていないところがあります。これからどうされるか分かりかねますが、人口が減っていくときに、外国人の方に来てもらって、いかにいい環境下で働いてもらうのかは、今後相当議論になるはずです。そこが抜けているのは少し気になるところです。

時間を延長してしまい、大変申し訳ございませんでしたが、非常に率直な議論ができた良かったのではないかと思います。

以上をもちまして、「令和5年度第2回清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を終了します。皆さまご協力ありがとうございました。事務局にお返しいたします。

4 閉会

(林企画政策課長)

皆さま、本日は貴重なご意見をありがとうございました。

次回の戦略推進会議は令和6年5月ごろの開催を予定しています。その際は、また改めてご案内させていただきますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

それでは、以上で終了とさせていただきます。本日は長時間にわたりありがとうございました。

問い合わせ先	企画部企画政策課 052-400-2911 (内線3251)
--------	-----------------------------------

会議の経過を記載して、内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 へ川 由美子

署名委員 小島川 雅夫